

文芸特集

たくさん作品の中から選ばれた秀作を紹介します。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒を、ご堪能ください。

一 席

八十四とても見えぬと煽てられ背筋のばして下校の旗振り

領家3 森岡 賢吉

評 作者の実年齢は八十四歳。容姿はもつと若い。「背筋伸ばして」で分かる。そして児童の下校時の旗振りをしている。人のために尽くす者は、身も心も若いのである。心からエールを送りたい。

吾子の呼ぶ何万回もの「おかあさん」八分音符で弾む日もあり

飯塚2 入江 令子

孫からのひ孫誕生映像で命のバトン熱き目頭

鳩ヶ谷本町4 佐羽みはる

ちらははを看取り終へたる妻なれど時に遺影に話し掛けたる

上青木西4 星野 良一

久々の散歩で犬に挨拶すしっぽも振らずに知らん顔

西川口2 仁志川安子

眠りへと誘われし時短歌のいで目覚めし時にはすっかり忘れ

末広3 後藤 和子

ふるさとのこの地に生まれて生きてきて間もなく終わらんこの地を愛す

安行原 高橋 清

あと何度おめでとかが云えるだろう電話のむこうのにぎやかな声

芝高木2 森田富美子

戦争のニュース見るたび人類は何と愚かと父は嘆きし

芝樋ノ爪1 山崎普一郎

ホーホケキョとうまく鳴けずに新人さん梅木にかくれ姿は見えず

東本郷2 松本 久夫

俳 句

一 席

復興を目指す朝市鯉のぼり

小谷場 宗像とき子

評 能登半島は地震、豪雨、大雪と自然災害により大打撃を受けた。それでもめげることなく復興にいそしんでいる。能登の復興を願うのは世界中の人だけではなく、元気に空を泳ぐこいのぼりも応援をしているかのようである。

指先に少し意固地や沈丁花

宮町 伊藤美沙江

青空にろうばいの黄が踊りだす

南町2 浦部千恵子

帆柱を立て地平までかきろひぬ

上青木西2 大滝 徳美

笑む仲間語る仲間や春うらら

弥平4 木村恵美子

若葉風野球少女は十二歳

朝日3 島谷 和子

断崖を浮き彫りにする黄水仙

上青木1 鈴木 千鶴

寒椿落ちる定めを秘せしまま

芝3 関口みとく

暮れなずむ湖を残して谷若葉

八幡木1 民 興次

竜天に昇りてホームランキャッチ

本町1 知念 哲夫

崇むこと天をうねりて鯉幟

道合 中田 一恵

昭和の日民謡かかる蓄音機

新井宿 平山 繁寿

晩学は余生の証し草青む

上青木西4 星野 良一

菜の花や雨の中なる石舞台

並木1 松本 和子

桜花器の中で開きけり

戸塚鉄町 宮園つみ子

一 席

加齢とは言わず働き者の手と

幸町1 保坂 治代

評 手のしわやしみは、誰かの幸せを願って働いた証し。しかし、前向きになれずに、手を見て、ため息が出るときがあります。年齢の積み重ねは、輝くものであつてほしい。前向きな旅路へと促す、応援歌のような作品です。

接戦の手綱さばきに学ぶもの

東本郷 土屋 弘子

物価高縮む財布が又縮み

戸塚境町 稲垣 洋

思い切り泣ける子供に還りたい

上青木西4 星野 良一

回す度未来を映す万華鏡

上青木4 星野 明美

川 柳

伊藤 真理子 選